

新人スタッフ紹介

当院の仲間が増えました。

- ① 勤務場所 ② 抱負 ③ 趣味、ストレス解消法 ④ 院内おすすめスポット ⑤ 座右の銘

の内容で自己紹介していただきます。



SE: 難波 辰晃さん

- ① 医療情報管理室/コンピューターシステムエンジニア (H23年8月~)
- ② 病院がスムーズに運営できるよう心がけます。行事にも前向きに取り組みます。
- ③ マラソン、スノーボード、草野球など
ストレスを感じる時は、お酒を飲むかカラオケに行きます。
- ④ 屋上からの景色が好きです。
- ⑤ 人にやさしく 私を見かけたなら気軽に声をかけてください。



調理長: 石川 和正さん

- ① 栄養課 (H23年11月~)
- ② 患者さんと職員においしい食事を提供できるように頑張ります。
- ③ 釣り
- ④ ランチスペースが食事をする楽しみの場所になってもらいたいと思っています。
- ⑤ 人生、平らな道ほどつまずきやすい。



看護師: 石井 初恵さん

- ① 3階病棟 (H23年12月~)
- ② 早く慣れるよう頑張ります。
- ③ コンサートに行くこと、食べること、寝ること。
- ④ 南側の病室から見える風景がきれいです。
- ⑤ 石の上にも3年

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくおねがいいたします。
表紙写真のナンキンハゼは、当院を訪れる誰の目にもふれる病院東側に悠々と立っています。最近特に大きく涼しくなったと感じているのは私だけでしょうか。
樹木には魂が寄り添う良い樹は良い運をあたえてくれるそうです。成長が著しいこの樹は今のチクバ外科を反映しているように感じます。
夏には新緑の葉をつけるナンキンハゼが今よりより雄大に感じられる自分でありたいと思います。(記 坂本)

当院へのアクセス方法

Access

高速道路から

瀬戸中央道の水島インターで「玉野岡山方面」出口から一般道へ。二つ目の信号交差点「郷内」を右折し、すぐ次の信号を左折。水島インターより約3分。

一般道から

県道児島線を児島方面へ向かい、水島インター手前のガソリンスタンド(ENEOS)のY字路を左方向へ。

JRでは

JR瀬戸大橋線の茶屋町駅で下車。タクシーで約10分。

バスでは

倉敷駅から下電バス「児島行き」で約25分。「菅原口」バス停で下車。徒歩約1分。

診察受付時間

〈受付時間〉午前 8:30~11:30
午後 13:00~17:30

〈休診日〉木曜日 午後・日曜日・祝祭日



〒710-0142 岡山県倉敷市林2217
TEL (086) 485-1755 FAX (086) 485-3500
ホームページ <http://www.chikubageka.jp>



ナンキンハゼの詩

写真・文 竹馬 浩

朝晩冷え込みが厳しくなると、チクバ外科のナンキンハゼの紅葉は日毎にきれいになる。

この樹はもともと病院のそばを流れている郷内川の川辺に自生していたものを、川の改修工事の際、破壊されそうになったのをクレーンで吊り上げて病院の中庭に移植したものだ。それから35年間くらい大事にしてきたが、どれほど多くの患者さんの気持ちを癒し、職員の心に元気を与えてくれたか計り知れない。春の目立ちは少し遅めだが、若葉の新緑から真夏の緑陰への移ろいは早く、この樹の下には大勢の人が憩い、紅葉期になるとハラハラと散る落ち葉を病室から眺めながら、その美しさを愛でるとともに、人はわが身を振り返りもの思いにふける。やがて、木枯らしとともに、樹は一変して真っ白な実にまどわれて、まるで花が咲いたような

美しさになる。その実を食べようとキジバトやスズメなどたくさんの野鳥が集い終日退屈を紛らわせてくれる。何万という実のすべては春先の訪問者ヒヨドリの大群がきれいに平らげてくれて春を迎える。チクバ外科ではこの循環が毎年リズムカルに唇のように繰り返され、いつしか皆がシンボルツリーと呼ぶようになった。ところが平成20年、病院を建て替えることになって、この大切な樹をどうするか、設計段階で大変悩んだ。移植は困難とわかったので熊野神社の宮司さんにきていただいております。別の若樹に「樹の霊」を乗り移らせる儀式を行った。この写真の樹は実はあのシンボルツリーの子供(実生)であり、病院の敷地で次の出番を待っていたものだ。心機一転チクバ外科は生まれ変わり、シンボルツリーも次世代へと移行しつつあるこの頃である。

理念

当院は大腸肛門領域の疾患を中心とした消化器専門病院として地域の医療に貢献いたします。

炎症性腸疾患

その1



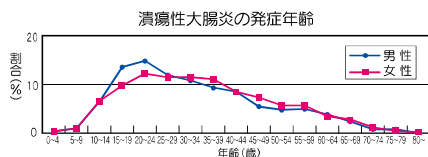
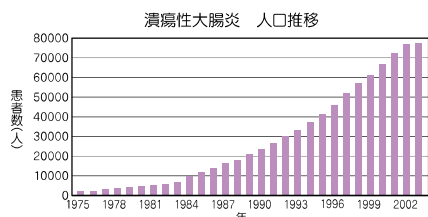
副理事長 竹馬 彰

潰瘍性大腸炎について

炎症性腸疾患といわれる病気の中には色々ありますが、そのひとつに潰瘍性大腸炎があります。原因不明の慢性の大腸炎を起こす病気です。直腸から深部に向かって炎症が連続するのが特徴です。厚生労働省から特定疾患に指定され「難病」とされています。全国的に食生活の欧米化とストレスにあふれた生活習慣から増えてきている病気で、現在全国では10万名を超える患者さんが治療されています。

症状と病態分類

主な症状	腹痛と下痢、粘血便
発症年齢	20～30歳代の比較的若い世代と50歳以降に分かれる
病態分類	①直腸型炎型 ②遠位大腸炎型 ③左側大腸炎型 ④全大腸炎型
症状分類	①軽症 ②中等症 ③重症 } 排便回数、出血の程度、発熱の有無、貧血の程度による
病状の推移	①再燃緩解型 ②慢性持続型 ③劇症型



治療について

重症度によって変わりますが、厚生労働省の研究班が出しているガイドラインに沿って内科的治療を行うことが原則です。

主な薬剤としては
 『ペンタサ』『アサコール』といった**5-ASA製剤**
 『ステロイド』『イムラン』などの**免疫抑制剤**
 その他、『**白血球除去療法**』最近加わった『**レミケード治療**』を組み合わせて治療します。

内科治療が基本ですが、治療に反応しない場合には手術をおこないます。手術では、大腸全摘出術を行い可能であれば、現在では回腸を袋状に形成した回腸嚢と肛門を吻合します。一時的に人工肛門をつくることもあります。原因不明であり、治療に難渋することも多い疾患ですが、多くの方は緩解期といってほぼ症状のない時期に向かって収束していきます。ただし、大腸がんの発生リスクが通常より高いため、罹患期間が長くなるに従って症状の有無にかかわらず大腸の検査を行っていくことが必要です。

チクバ外科 文化祭を開催しました

第11回チクバ外科文化祭はH23年11月11日～19日に開催されました。スタッフが、それぞれの趣味を生かし、22名と2組(バレエ部、保育室)の作品が出品されました。

今年のテーマ『頑張れ日本』・『頑張れチクバ』

今年のテーマにそって、とてもすばらしい文化祭になりました。理事長、院長からもたくさんの賞を用意していただこうと



思いました。惜しくも入賞できなかった方々にもお心遣いをいただき本当にありがとうございました。皆さま、これからも自分の趣味を生かして、文化祭を続けていただきたく思います。忘年会、病院旅行、部活動の写真を紹介しました。数々の行事は職員同士が仲良くなれる絶好の場です。

思い出をたくさん作りましょう。

実行委員長 波多野和美(病理)



理事長賞・院長賞受賞 病理医 豊田 博先生

タイトル/我が像

ご自分の影を撮影されたものです。きわめて幻想的な印象を受けます。毎日、顕微鏡をのぞかれている先生ならではの作品…と大好評でした。

安全キャビネットによる無菌調剤開始



9月1日より薬剤部に安全キャビネットが導入されました。がん化学療法に使用する注射剤はこれまでも薬剤師が調製を行っていましたが安全キャビネットが新設されたことで、より安全に衛生的に調製することができるようになりました。安全キャビネットは薬剤部に隣接するスペースに設置されましたので調製をより迅速に行うことができ、患者さんの時間的な負担が少しでも解消できればと思っています。



抗がん剤治療を受けられる患者さんとのコミュニケーションを大切に、副作用などの不安や疑問に丁寧にお答えするとともに、患者さんが気軽に相談できるような環境づくりをめざしています。

患者さんの血液検査の結果や副作用の症状を確認し、薬剤の選択や投与量、投与スケジュールの変更などを医師とともに検討したり、副作用症状を軽減するための工夫を看護師とともに考えたりしています。今後も患者さんが安心して治療を受けられるようサポートしていきたいと思っております。

